

2013年
8月22日 木

発行所：北海道新聞社
札幌市中央区大通西3丁目6
〒060-8711 電話：011-221-2111
www.hokkaido-np.co.jp

高齢化、核家族化 増える孤立死

遺品整理 高まる需要



④室内の新聞や空き缶を片付ける木村さん（左）。壁のカレンダーは2010年9月。右は11年1月だった③男性が通っていた部屋。中央のベッドで寝起きし、食事もこぼして済ませていたという②清掃後のリビング。床には水分がしみこんで所々汚き、色もまだらに

誰にもみとられず自宅で孤立死した人の遺族に代わり、故人が残した品を片付ける遺品整理。道北の業者はまだ少ないものの、近年単身世帯の増加などで需要が高まっている。遺品整理の作業は思い出の品をえり分けるだけではなく、大量のごみの処

分や消臭を伴う場合が大半だ。年をとると体の動きや判断力が鈍るなどの理由で、弁当の容器やペットボトル、古新聞などに埋もれた状態の部屋も少なくないからだ。遺品整理の現場を見た。

（旭川報道部 中沢広美）

「悲しみ軽くしたい」

村庸平さん(34)は、作業の手を休めてつぶやいた。

干からびた野菜

旭川市内の木造り階建ての一軒家。この家に一人暮らししていた80代の男性が亡くなった。遺族から遺品整理を依頼された。4LDKを依頼された。Kの全ての部屋を、気温は27.0度ながら、

「全然、終わりが見えない」。7月中旬のある日、遺品整理を行う旭川市のシーエスプランニング社長の木

遺品整理業 遺族に代わり、故人が残した品を整理する業者。廃棄物処理法では廃棄物の運搬収集、処理を行う業者の行政への届け出を定めているが、遺品整理では必要ない。そのためごみの不法投棄や遺品の転売などの問題も起きている。

業界の健全化を図るため、道内の業者らは2011年9月、遺品整理に関する初の民間資格という「遺品整理士」の養成・認定を行う「一般社

団法人「遺品整理士認定協会」（千歳）を設立した。遺族らと問題が起きた際は資格を剽奪するなど厳しい規定を設けている。

有資格者は21日現在、全国で2776人。道内では361人。上川、留萌、宗谷の3管内では25人で、旭川では木村さんから18人。起業を志す人だけでなく、近しい人の有事に備える主婦らもいる。12年1月の札幌の姉妹孤立死以降、資格の申し込みが増えたという。

日差しがきつくと、風は強い。作業を始めるのに汗が噴き出し、周囲を八工がたたり、においもきつい。それでも木村さんはスツップとともに片付けを進める。ごみ袋の下からは靴やバッグ、干からびた野菜まで出てきた。

冷蔵庫を開けると、数年前に賞味期限が切れた肉が腐敗臭が漂っていた。



男性が残した日記。妻との思い出が綴られていた

れた食材がぎっしり。卵を取って手に乗せると重さをほとんど感じさせない。中身が固まってしまったのか、振るとカラカラと音がした。

旭川に数社程度

遺品整理士認定協会

旭川市は、市内での孤立死の件数について「実態の把握は難しい」とするが、木村さんは「旭川でも近年、孤立死が増えている」と感じている。

「旭川でも近年、孤立死が増えている」と感じている。

している。8年間、市内の葬儀会社で働いた実感だ。当時の経験が遺品整理業を始めたきっかけでもあった。葬儀の依頼を受けて故人の家を訪れたものの、準備ができてはなかった。遺族と一緒に片付けをする機会が増え、ごみの量が多かったり、においがきつかったりする際は頼める業者が見つけられず、途方に暮れる遺族も少なからず見てきた。「葬儀屋は多いが、旭川では掃除する人はほとんどいない。困っている人の力になりたい」。今年1月に葬儀会社を辞め、3月から遺品整理業を始めた。

遺品整理を行う業者は、行政などへの届け出は必要ない。兼業や個人で行っている場合もあり、市内の業者数のデータはないが、木村さんと同協会によると、数社程度しかないと思われる。

「妻と2人でレジャーに」。今日は寿詞を食べた。約10年前の日記も出てきた。きちょうめんな字で、日々の出来事をつづっている。

これらの品は遺族に渡したが、段ボール箱2箱分にすぎなかった。多くの品は処分された。4トトラックで約10台分にもなった。作業に要した日数は10日。「正直、今回はきつかった」と木村さんは漏らす。

それでも、この仕事を続ける原動力は何だろうか。「少しでも遺族の悲しみや苦勞を軽減するお手伝いをしたいからです」。真摯な口調で返ってきた。

10年前の日記も

大切なものは、ここに置いていたんでしようね」。男性の家の片付けをしていた木村さんが神棚に手を伸ばすと、年賀状や小学校の同窓会の案内、選挙の投票用紙がぎんぎんと出てきた。7年前に亡くなった妻のものとと思われるくしもあったという。